

川西市議会議員

きたうえあきひと

北上哲仁活動記録

The Road

2002.10 2005.12



この「The Road」は、「北上哲仁サポーターズ」が
この間に発行した「いなほだより」をもとに編集した報告集です。



きたうえあきひと
北上哲仁

大事だと思ふことは、
皆さんと「いっしょに」ということ。
皆さんと情報を共有し共に政策を作る、
市民の願いや思いに応える運動に共に取り組む、
そのことが肝心です。

〔略歴〕一九七一年、少年は山と田んぼに囲まれた猪名川町に生まれ、伸びのび育った。中学時代にネパールの子どもを結核から救うため、友人と使用済み切手収集活動を展開。「小さな力でも何かできることを知った」という大学時代。「トイレは男性・女性・障害者用の三つに分かれている。なぜ障害者用に性別はないのか」と障害を持った友人の言葉に衝撃を受ける。当事者と共に悩み、誰もが生活しやすい環境つくることの大切さを実感した瞬間だった。卒業後、川西市社会福祉事業団就職。知的障害者授産施設で職業指導に打ち込んでいた一九九七年、彼に大きな転機が訪れた。地元衆議院議員の中川ともこさんに誘われ、周りの反対を振り切り秘書に転職。政治の世界に飛び込んでいく。五年後、川西市議会議員に初当選。旅、釣り、スキ―、小型船舶操縦と多彩な趣味を持つのだが、日々市民の声に耳を傾けながらの議員活動で、しばらく時間が取れそうにもない。(M)



憲法9条の大切さを訴えるピースアクション

分の子どもの命が尊いように、
世界の子どもの命は等しく尊い
と信じます。

子どもたちに平和な未来を保障するの
は、大人の責任であり、
政治の役割です。(04年4月号)

外交面で軍事大国化すれば、内政に
おいて民主主義が否定されることは
歴史の経験から明らかです。

小さくても声をあげ続けましょう。

(04年4月号)



自衛隊のイラク派兵に反対するピースウォーク



川西の小学生が訴えました。

「戦争で幸せになる

子どもは、いない!」と。

全くその通りです。(05年1月号)

「九条の会」事務局長で東京大学教授の
小森陽一さんをお迎えして講演会を開催

9条を変えてはいけない

大和西 T・F

教育基本法の改悪・心のノート・「つくる会」教科書などの一連の動きが最終的に繋がる場所は、憲法9条の「改正」であり、その結果、現政権がアメリカのブッシュ政権に協力して、海外で堂々と武力行使ができる「戦争への道」をひらく危険が強い。

今、庶民の側で一番大事なことは、力をあわせて、「平和憲法の根幹である第9条を変えてはいけない」とはっきり言うことだと思えます。

それは大阪大空襲などで戦争の悲惨さを体験した者からの、より若い方々への切なるお願いでもあります。

(05年7月号)

私は、里山が「地域や世代、職業を超えた市民交流の場」、
「家族の絆を深める場」、「子どもたちが心を解放し思いっきり
遊べる場」として、とても大切だと感じています。(03年2月号)



ごみ処理施設建設予定地にある大山桜見学会

ごみ処理施設建設予定地に異議を唱えました。
国崎・黒川地区の里山ほど多様な生物が生息するための
好条件が揃っている場所は京阪神でもきわめて稀です。
残念ながら建設工事は始まってしまいました。が、
裁判闘争等で様々な問題を追及し続けます。

市南部・加茂地区に生息するヒメボタルについては、
市民による調査・保全活動が10年以上にわたり
続けられています。

その調査によると、96年～00年までは毎年2000頭前後だった出現
数が、01年以降は1000頭程度に半減していると指摘されています。

生息地の開発に歯止めをかけるために具体策をとるべきです。(04年6月号)

ヒメボタル

ヒメボタルとは・・・

ホタルと言えば幼虫が川や田圃で過ごすゲンジやヘイケボタルなどを思い浮かぶが、ヒメボタルは陸生ホタルであり、ヒメボタルのメスは羽が退化しており飛ぶことができない。

オスの発光にメスが応えて発光すると、オスがメスに近づいてカップルを作る。幼虫は土の中や表面に棲息する陸性の貝をえさにする。

化学物質過敏症

私は化学物質過敏症です。

化学物質による健康被害を受けてから、ある種のごく微量の化学物質、例えば、道路の舗装工事、家屋の外壁塗装、ガーデニングの殺虫剤スプレー等に反応して、その場にいられなくなります。北上さんに相談したところ質問をしていただきました。市の答弁は「広報などあらゆる媒体を通じて業者・市民に農薬を使わないよう啓発していく。また環境基本条例にも盛り込んでいく」ということでした。今後につなげることができると喜んでおります。市からの答弁の中には、幾度か「市民からの声もあり・・・」というがあり、私達市民が市役所に相談や要望するのは有効だなと、嬉しくなりました。市は市民の声を無視しないし、時間はかかっても変わっていく手応えを感じました。(05年1月号)

変わっていく手応えを感じました(市内女性)

子どもたちを巡る悲しい事件が続きました。

その原因について保護者の責任をことさら強調する発言が目立ちます。確かに家庭教育の果たす役割は重要です。しかし地域の連帯感が薄れ、少子化・核家族化が進み、子育て、子育てが大変「孤独」な状況にあるなか、「親がしっかりすれば・・・」と言えは言うほど親を追いつめ、家庭内暴力や児童虐待、育児放棄や極度の母子密着という現象を生みます。

また「憲法」や「教育基本法」を問題にする声もありますが、問われているのは法律の条文ではなく、子どもたちが育つ「地域社会」のあり方ではないでしょうか。



やっと入所できた保育所へ娘を送っていくのが日課です

私は地域の大人が協力し複眼的に子どもを見守ること、地域に子どもの居場所をつくるのがいま求められていると思います。(03年8月号)

仕事と子育てとの両立には困難が多くあります。保育所入所を希望しましたが、娘は現在「待機児童」。子育て、子育てには課題がいっぱい。

**子どもたちや子育て真っ最中の親の声を
市政にしっかり届けます。** (05年1月号)



コミュニティの体育祭に参加

長年の市民の運動が実り、2学期から学校給食の米飯が週1回から2回になります。米飯給食が望ましい理由は、以下の3点があげられます。

小麦に比べアレルギーが少ない
輸入小麦はポストハーベストが心配
伝統食であり、和食のおかずは健康的

川西の学校給食は100%地元産米を使用。米飯給食は川西の水田を守ることにもなるのです。(04年4月号)

北上さんの質問は分かりやすく、子どもの健康のことを真剣に考えていることが伝わってきました。要はやる気の問題です。
今のままの給食では、米離れする子を増やし、病気は年々増え、食糧自給率は下がり、環境は悪くなる一方。本当に子どもの健康、日本と川西の将来を考えて欲しい。季節の野菜や豆類、海藻類、魚介類を中心とした健康的なおかず合うのは、やはりご飯です。

東多田・保護者



市の財政は確かに厳しく、毎年基金を取り崩している。行政運営の効率化は当然に必要でしょう。しかし、子どもと高齢者、障害者、市民と直に接する教育や福祉、医療現場においては、人的な充実が欠かせません。私は福祉現場の職員でした。市長は教育現場の出身です。そのことは十分におわかりだと思います。効率化するべきものと、行政の責任としてしっかり守るべきものがある、ということを申し上げます。

(05年10月号)

12月議会では、障害者や母子家庭に対する福祉金(重度障害者で年間4万5千円)や、中度障害者に対する医療費給付を廃止する議案が可決されてしまいました。(北上は廃止議案に反対)

障害者の自立と社会参加に向けての施策はまだ不十分です。支援費制度がスタートしていますが、必要なサービスは行き渡っていません。障害者福祉施策についての要望書を市長に提出しました。

要望の概要は 支援費制度の拡充(特にガイドヘルプ・デイサービス事業)
就学・就労支援の拡充 小規模作業所運営と新規設立への支援拡充
相談業務の強化・拡充 障害者を地域づくりの主体とする等です。

新年度予算や各事業に反映されるよう粘り強く働きかけていきます。

(05年1月号)

障害者福祉施策について
要望書を市長に提出

初めての議会質問で「障害者の雇用促進」を訴え「知的障害者の

公務内職場での採用」を提案しました。嬉しいことに、この4月から市立図書館で雇用が実現。現在、ジョブコーチと共に業務に取り組んでいます。(05年4月号)

知的障害者2名
市立図書館で雇用実現

力をあわせ行動しよう

留守家庭児童育成クラブ
保護者

各小学校区の留守家庭児童育成クラブは、1年生から3年生を対象にしています。4年生以降は自立して留守番できる子が多いからです。しかし、私の子どもは障害があり、高学年になっても一人で放課後を過ごすことは難しいのです。北上さんに相談し、一緒に教育委員会の方と話し合ったり議会でも要望してもらいました。おかげで4月から障害を持つ子どもについては6年生まで受け入れが可能になりました。力をあわせ行動すれば思いが叶うのです。

(04年4月号)

私が調査したところ、川西市全人口16万人のうち何と7人に1人の個人情報が民間業者へ流出の事実が判明

成人式、出産等、暮らしの節目にタイミング良く業者からダイレクトメールが届く経験は多くの方が持っておられるはずです。実は個人の氏名・住所・生年月日・性別について市役所で手続きすれば業者が個人情報を閲覧し書き写すことが法律（住民基本台帳法）で認められているのです。（05年1月号）

私たちの知らないところで個人情報が流通し、プライバシーが取り返しのつかない不利益を被る危険性があるのです。私は昨年の市議会で、「住民基本台帳ネットワークシステムへの参加を個人選択制にするべきだ」と求めました。
（03年2月号）

「住基ネット離脱」を選択した
東京・国立市の上原公子市長と



北上は兵庫住基ネット差し止め訴訟事務局長。神戸地裁に提訴（03年8月号）

住民の声が議会を動かす

いややねん！住基ネット

川西市民の会

渡辺静雄（大和西）

北上さんは、先進市の熊本や佐賀へも視察に行かれ、自治体の責任として住民の個人情報をいかに守るべきかを真剣に考え大量閲覧を止める手立てを模索されています。

今回、北上さんに紹介議員になつてもらい、請願という形で私たち住民の声を市議会へ届けることができました。ご尽力のおかげで、私たちの要望が川西市議会の意見書として、国へ提出されるといふ喜ばしい結果を得ました。

基本台帳法を改正して大量閲覧を禁止する意見書を政府に提出して欲しいという請願が、2つの市民団体から6月議会に出されていました。嬉しいことづく、この請願が全会一致で採択されました。（05年7月号）

包丁条例案

「市内で包丁を購入する際は、氏名・住所・購入目的を記入しなければならない」

大阪府寝屋川市での教職員殺傷事件などを受け、こんな条例が3月市議会に提案されました。包丁はどここの家庭にもあり日常的に使用している物です。その購入に手続きを課して何の意味があるのでしょうか。犯罪を生み出す社会の在り方を改める努力こそが、大切ではないでしょうか。(05年4月号)



市は条例案を撤回

在日無年金障害者

市内に外国籍無年金障害者は重度の方が3名、中度の方が2名おられます。高齢者24名で70歳代後半以降

の方ばかりです。同じ市民であるにもかかわらず、国籍の違いによって制度の狭間に放置され、未だ無年金状態に置くことは平等性に欠けた大きな人権問題であり、早急に是正されるべきです。本来、国の責任で解決するべきですが、国がその役割を果たさない段階では、自治体が必要な救済策を講じるべきだと思います。(04年1月号)



新年度より給付金一部増額

性的少数者の人権

性同一性障害等に対する社会的関心は高まっており、全国の自治体でも差別・偏見をなくすために、様々な施策が展開されています。特に公文書の性別欄についてはセクシャルマイノリティー(性的少数者)の人権・プライバシーに配慮するため、見直しが進んでいるところです。宝塚市でも今年度から70以上の公文書で性別記載欄が削除されました。また性別欄の是正は、少数者の人権救済はもちろんの事、男女共同参画の面からも大切な課題です。(04年6月号)

性同一性障害等に対する社会的関心は高まっており、全国の自治体でも差別・偏見をなくすために、様々な施策が展開されています。特に公文書の性別欄についてはセクシャルマイノリティー(性的少数者)の人権・プライバシーに配慮するため、見直しが進んでいるところです。宝塚市でも今年度から70以上の公文書で性別記載欄が削除されました。また性別欄の是正は、少数者の人権救済はもちろんの事、男女共同参画の面からも大切な課題です。(04年6月号)



不必要な性別記載欄をなくす方向へ

議会を傍聴して

M・T

北上さんの質問を傍聴させて頂きました。トランスジェンダー・性同一性障害をもつ者について、大変深いご理解を頂き、感謝いたしました。

答弁では具体的なタイムスケジュールは示されなかったものの、理解が深まっていることが実感できて、大変嬉しく思います。ただ、他の議員さんの無理解な不規則発言(野次)は残念でした。いわゆるパツクラッシュの動きなのでしょうか。

ただ、小さな後戻りはあっても、大きな流れは変わらないとの見方を新たにしました。

マイカーの利用を抑制し公共交通の利用拡大が必要であるとの認識がひろがると共に、市民のモビリティ - (移動のし易さ) を確保することも重要です。

昨年まとめられたアンケート調査によると、約7割の方が「地区内巡回及び駅、病院を結ぶ小型バスの運行」を望んでいます。

交通政策は市民生活の質を左右する大切な課題。市民の立場で交通政策の充実に取り組みたいと思います。(03年2月号)



日本初のコミュニティバス
(東京・武蔵野市にて)

便利な駐輪場を増やそう！

川西能勢口駅前違法駐輪は、歩行者通行に支障をきたしています。放置自転車を撤去するなどしていますが、余裕がある歩道に駐輪場を設置するべきではないでしょうか。

先日、視察に訪れた東京都武蔵野市は、かつて「違法駐輪全国ワースト1」でしたが、駅前の歩道に駐輪場を設置することによって、その汚名を返上しています。

練馬区や浦安市などでは歩道にワンコイン式駐輪設備を設置し違法駐輪を減らしています。

川西市は広報で「地球温暖化防止のために自家用車通勤を止めて徒歩・自転車・公共交通機関を利用してください」と呼びかけています。そのためにも便利な駐輪場を増やすべきです。

中央北地区整備事業

市の中心部にある大規模(約24ヘクタール)のまちづくりです。05年12月迄には区域内にある全皮革工場が閉鎖・移転することが決定しており、05年度中に事業計画案を策定します。昨年11月4日に「中央北地区まちづくり講座」を開催し、担当課と意見交換をしました。(05年1月号)

.....
声を上げていくことが大切です」

萩原・女性

阪急「川西能勢口」駅から600メートル北の広大な土地で、買収問題はどうなっているのか、どう開発されるのか、税金は適正に使われるのか、と非常に関心の高いところです。

川西市で最後の大規模開発になるであろう今回のプロジェクトは、多くの市民が通勤などでそばを通る所に位置しており、近隣住民以外にも関心のあるものだと思います。

行政による大規模開発などがあると「市民の声が反映されていない」という意見がでます。しかし家で待っていても行政が市民の声を聞きに来てくれるわけではありません。いろいろな機会を利用して、市民の声を少しでも行政に伝えていかなければならないと思います。

声を上げずに、「あんな開発になってしまっ・・・」と言ってもあとの祭りです。

一人で悩まず是非ご相談ください。
北上的のもとには、日々市民の方々の相談が寄せられます。

こちらが恐縮するくらいに応援してくださいました 萩原・鳥羽恭平

私は市内特別養護老人ホームにパートのヘルパーとして勤めていたのですが、労働組合活動を始めたところ、突然に解雇されました。解雇撤回を求め裁判に訴えました。北上市議に相談したところ、関係機関への働きかけや労働団体へ支援の呼びかけなど動いていただきました。また「現場で働く者が安心して仕事に取り組める環境があつてこそ、まともな福祉サービスが提供できる。これは川西の福祉全体に関わる問題だ」と議会で取り上げ、一方で私を支援する「会」を立ち上げて集会や駅前での宣伝活動をしてくれるなど、こちらが恐縮するくらいに応援してくださいました。

そんな励ましのおかげもあり、最高裁で勝利することが出来ました。若いのに見識があり行動が早く、小さなことにも誠実に対応する北上さん。こんな人こそ議員として引き続き頑張ってもらいたいです。

「本当に助かりました」市内女性

私は離婚後、働きながら2歳になる子どもを育てています。先日、生活に困り保育料(月約29000円)が支払えず、北上さんを訪ねました。北上さんは市役所の中を一緒に走り回ってくれ、税理士さんなどにも相談してくださいました。保育料は前年の納税額などによって決まるのですが、調べてみると私は確定申告の際に間違っして手続きをし、必要以上に納税していることがわかりました。修正申告をし、その結果、保育料は免除されることになりました。

知らずに一人で悩んでいたら、どうなったことか。
本当に助かりました。(03年8月号)

しごと・くらしなんでも相談

困っておられることや不安なこと、お気軽にご相談ください。
専門家のアドバイスを頂きながら、一緒に考えていきましょう。

〔顧問相談員〕

- 在問秀和弁護士 大川一夫弁護士 恵須川満延行政書士
- 小池貞二社会保険労務士 阪本弘美増改築相談員 ほか

〔連絡先〕事務所072-758-7724 fax 7725 メール akihito@kitaue.com

市役所072-740-1255(内線4060) 北上携帯 090-3613-7069

「そやけど一人じゃなあ…」と躊躇するあなた。大丈夫。

北上哲仁サポーターズ代表 早瀬 和人

2005年1月より、北上哲仁サポーターズ代表を務めています。

お引き受けした当初は不安でいっぱいでした。でも、あるテレビ番組で女優の吉永小百合さんが「今、声を出さないと大変なことになるのでは。でも誰も声を出していないのが怖い。だからこそ、今年は声を出していこうと思います」とお話ししていました。戦後60年が経った今、再び戦争に備えようとする空気を案じ語られたのを聞き、勇気を得たのです。

「声出したい人、ここにもいる。私たちは生活の様々な現場で、
様々な『声』を出しながら生きたい！」と声をあげたくくなりました。
「そやけど一人じゃなあ…」と躊躇するあなた。大丈夫。北上さんが声を出している。

三年間を振り返って

川西市議会議員 北上哲仁

私のような至らぬ者が何とか市議会議員を務めることが出来るのは、支えてくださる多くの皆さんのおかげです。心より感謝申し上げます。

市議会では「小さな声」を伝えようと努め、特に福祉や子ども施策、人権問題などに力を入れてきました。当事者の方々と語り合い、一緒に考え、質問や要望を重ねています。また、交通問題や労働問題、環境政策でも市民の皆さんと一緒に活動しています。

実現したこと、道半ばのもの、色々あります。一人の力は限られています。皆さんと智恵と力を合わせて前進したいと考えています。

市議会議員は人の痛み、いのちの尊さに敏感でなければならないと思います。人間の「いのちと生活」を否定する最大のものは、戦争です。憲法9条は一項も二項も変えてはならない。川西から平和のメッセージを発信し続けます。

私たち大人には、自然環境豊かで文化の薫り高い川西市を築き、子どもたちに引き継ぐ責任があります。目先のことに右往左往するのではなく、しっかりと未来を見据え、川西のまち作りに取り組む決意です。

2005年12月